

釜戸小だより

思いやりと活力あふれる学校
～今よりも、もっといい自分 いい釜戸小～

令和2年1月8日
第11号
1月号
瑞浪市立釜戸小学校

謹賀新年 本年もよろしくお願ひいたします

2020年を迎えました。今年はオリンピック・パラリンピックが東京で開催されます。きっと参加する選手たちは、自己記録の更新やよりよい成績をめざして懸命に努力していることでしょう。釜戸小学校職員も、よりよい教育ができるように、子供たちがより健全に育つように精一杯努力していきます。本年もどうぞよろしくお願ひします。

今よりも、もっといい自分、いい学級、いい釜戸小に

3学期がスタートしました。3学期はまとめの学期です。短い学期ですが、勉強や仲間づくりなど今まで取り組んできたことの成果と課題を確認しつつ、一つ上の学年に向けての準備をする大事な学期です。始業式には、1・2学期にできるようになったことを踏まえ、「今よりもいい自分、いい学級、いい釜戸小」になるよう努力しようとお話しました。今の状況に満足しないで、向上心をもって取り組んでいくことを大切にしたいと思います。

一つ上の学年の姿をめざす

よく3学期は0学期と言われます。一つ上の学年の準備期間としての0学期という意味です。4月から6年生は中学生に、5年生は最高学年の6年生に、4年生は委員会活動に参加する5年生に、3年生はクラブ活動に参加する4年生に、2年生は低学年下校の時のリーダーになる3年生に、1年生は新1年生のお世話をする2年生に、それぞれ進級します。一つ上の学年に進級すれば、それだけ役割も責任も期待も大きくなります。分団によっては、4年生や5年生でも班長や副班長になることがあります。授業態度や普段の生活態度も一つ上のレベルを求められます。今の自分、今の学級がそのレベルに達しているか考え、達していることについては継続し、達していないことについては努力して向上させることを目標としたいと思います。みんなが一つ上のレベルに、全ての学級が一つ上のレベルに達することができたら、今よりいい釜戸小になっていることは間違いありません。

一年間の学級の宝物づくり

どの学級も、学級目標を4月につくりました。こんな学級、こんな自分たちになりたいという願ひをもってつくったはずですが、その目標の姿になっているかどうか、振り返って考えさせたいと思います。もうすでに学級目標を達成できている面もあると思いますが、まだまだ足りない面もあると思います。そこで、今の学年のうちに学級目標を達成できるように努力させたいと思います。一度にたくさんのことは無理かもしれませんので、何かできそうなことを一つか二つ選んで取り組むようにします。そして、達成できたことは学級の宝物としてみんなが喜べるようにしたいと思います。学級の宝物が一つでも多くなるように励ましていきたいです。

今の学年での最高の姿を

3学期は、授業参観や6年生を送る会、卒業式、修了式などがあります。その場で、一番よい自分の姿や学級の姿を見せることを目標にして努力させたいと思います。堂々と発表する姿、わかりやすく説明する姿、真剣に集中している姿、じっと話に耳を傾ける姿など、その場面で求められる姿をイメージさせ、その姿を見せられるように励ましていきます。今の学年での最高の姿を求めていきます。

スケート教室ボランティア ありがとうございます

12月24日、晴天に恵まれて、無事にスケート教室を行うことができました。大勢の保護者の皆様にボランティアとしてお手伝いをいただきました。ありがとうございます。



親さんの姿・思いから学んだこと

お参り

もう30年以上も前のことになります。自分はまだ駆け出しの教師でした。初めて小学校1年生を担当しました。38人の学級で、何をすることも子供たちを動かすのが大変でした。でも、とても明るく人懐こい子供たちで、元気で楽しい学級でした。

夏休みが終わり、2学期になりました。1人の女の子が泣いて親さんに連れられて登校してきました。長い夏休み明けで、親から離れて登校することが不安になってしまったのか、3日も4日も続けて泣きながら親さんと一緒に登校してきました。教室でその子を迎えました。でも、授業が始まるともう泣くことはなく、普通に1日を過ごしていました。

1週間ほどたった日、その子は元気に近所の子と登校してきました。親さんの姿はありません。泣かずに登校できたことを喜ぶとともに、親さんに女の子の様子を聞きました。すると、次のような話をされました。

「私は娘を叱ることはしませんでした。ただ、娘が学校から帰ってきたら、毎日一緒にお宮に行きました。そして娘と一緒に参りをしました。明日は元気に登校できますようにと、娘と一緒に祈りました。」

それを聞いて、親さんの子を思う気持ちに心を揺さぶられました。子供の気持ちを十分受け止め、共感した上での参りだったのだろうと思います。

あて布

同じ学級の親さんから、もう一つ学んだことがありました。それは学級懇談会のことでした。ある親さんが、「子供がよく泥だらけになって帰ってきて、時にはズボンが破れていることもあります。洗濯はするけれど替えがなくて、穴あきのズボンをはかせて学校へ行かせてしまうことがあります。あて布をしても子供は嫌だと言うし、そういう時もありますよね。」と話されました。すると、別の親さんが次のように話されました。

「家の子も男の子だからよく泥だらけになって帰ってきます。ズボンに穴があいていることもあります。でも、そのまま穴があいているズボンをはかせたことはありません。穴あきのズボンをはいていて恥ずかしいのは、子供本人ではなく親です。あて布をして穴をふさいでやらなければいけませんよ。あて布がしてあるズボンをはくのを子供が嫌がったら、それは違うと教えてやればいいんです。」

その話を聞いて、親として子供に何をしてあげているか、ちゃんと親の務めを果たしているかを考えなければいけないということだと理解しました。30年以上も前の話で、最近ファッションとして穴あきのズボンをはいている子はいても、あいてしまった穴にあて布をしたズボンをはいている子は見かけなくなりました。でも、今でも名前の布を縫い付けてある服などを見ると、親さんの思いが伝わってきます。

学校だよりや行事予定、学校の活動の様子は、ホームページでも紹介しています。

釜戸小学校 HP <http://kamasho.city.mizunami.gifu.jp> ぜひご覧ください。